

大学生のボランティアを募集し、授業をサポートしてもらう取り組みを春日部市銚子口の市立豊野中学校(生徒数478人)が独自に実施している。教員志望の学生は現場を体験する機会になり、教員側も授業のバリエーションが増えるなどのメリットがあり、4年目となる新年度も続けていく予定だ。

* 春日部・豊野中

ボランティア授業を支援

多恵子教諭(36)は、別パートの生徒たちを指導した。「一度に複数のグループを教えられるし、前島さんに伴奏を任せて私が歌の指導に専念する授業も可能かも」と、一定の技能や知識を持った学生たちを重宝している。

学生は教育実習のように教諭から教授法の指導は受けられないが、授業に参加して学ぶことは多い。音楽教諭志望の前島さんは2008年12月からほぼ毎週木曜日にボランティアをしており、「生徒のやる気を引き出す先生の声の大きさや表情、気持ちの切り替えの速さ、すべてが勉強になる」と話す。

教師目指す大学生募集

豊野中は教員の負担軽減などを目的に、06年度から学生ボランティアの独自募集を始めた。教員採用試験に合格し

た学生を小中学校に派遣する県教育委員会の「教員インターンシップ事業」をモデルとし、学年、専門を問わず、随時受け付けている。市内など県東部から06、07

年度は各3人、08年度は4人の学生が参加。定期的に来校し、自分の専門分野を生かせる授業で教員の助手をしたり、配布物の印刷を手伝ったりしている。

英語の授業で学生と教諭がペアを組み、生徒たちの前で英会話を披露することで、「一人二役で見せるより、会話の状況をつかみやすくなる」(英語教諭) 効果を生むなど、授業の幅を広げている。

同校近くに住む武蔵野音楽大学3年の前島由佳さん(21)は2月26日、2年生の選択音楽の授業に参加した。自らグランドピアノで伴奏し、女子生徒約20人の合唱を指導。「もっと声を高く上げて」「ここは大きな声で」などとアドバイスを送ると、ピアノを囲んだ生徒たちは真剣な顔つきで聞き入った。

同じ時間、音楽担当の藤田

教育

ルネサンス



前島さん(左)のピアノ伴奏に合わせて合唱の練習に励む生徒たち(2月26日)

授業以外に、特技を生かして部活動に加わる場合も。吹奏楽部で、前島さんからフルートを教わる2年生の竹花美幸さん(14)は「本格的な音の響きや指導を受けられる」とうれしげ。生徒たちからは、「年が近いから話しやすい」「大学のことを教えてもらったら」など、身近な良き相談相手として慕われている。龍野宏校長は「中学は慢性的な人手不足。生徒への手厚い指導につながり、大変ありがたい」と話している。